

# まちのため!

## 中学生54人がディスカッション

次世代を担う中学生に、まちづくりに興味を持ってもらおうと、2月1日、市民会館に市内の中学校10校から54人が参

加した「中学生ディスカッション」が行われた。ひらかた市民活動支援センターと市による共催で、平成29年度から市

制施行70周年記念事業として始まり、今回が3回目。平成29年度と30年度は「防災」をテーマに実施されている。

今回は、「地域や枚方をより住みよいまちにするために私たちにできること」をテーマに、5〜6人で1グループを構成し、SDG Sカードゲームで地方創生についてのオリエンテーション後、ファシリテーターのサポートを受けながらディスカッションを行った。地域や枚方のことについて、学び、感じ、考え、お互いの意見を交換した。

そうして1時間半に渡ってのディスカッションした結果をそれぞれ発表した。

昨年度までの参加者からは「様々な視点に立った考え方に触れられて良かった」、「他校の生徒と意見交換できる貴重な機会になった」、「ディスカッションのテーマについて、自分の学校に持ち帰り話し合ってみたい」といった意見がでて、今回も、「ごみが落ちているまちは暮らしにくい」、「道が狭いと事故が起きやすい」などの暮らしやすいまちに向けた意見が飛び出し、なかには市外へのPRのため「くらわんか餅をふるさと納税にするべき」といった提案も出た。

「普段の生活では考える機会のないテーマで新鮮で楽しかった」との感想もあり、普段では体験できない有意義な時間を共有した中学生たちだった。



意見を発表する中学生